

公的年金の意義



公的年金と貯金なにが違うの？

公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、広い意味での保険制度にあたります。老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べて、以下のような特徴があります。

1. 生涯にわたって受給できる

誰も、自分が何歳まで生きるか、死ぬまでにいくら必要なかはわかりません。

そのため、貯金をしていても、生きている間に使い切ってしまうかもしれません。

それに対して公的年金は、亡くなるまで受給できる仕組みです。長生きして貯金がなくなったらどうしよう…という心配はせず、安心して暮らしていけるのです。

2. 物価変動や賃金上昇など、経済の変化に比較的強い

物価や賃金が上がると、それまでしてきた貯金の価値がなくなってしまう（価値が目減りする）かもしれません。

公的年金は、そのときの物価や現役世代の賃金などに応じて、どれくらい給付されているかが決まります。そのため、物価が上がるインフレなどに比較的強いと言われています。

3. 重度の障害を負った / 一家の大黒柱が亡くなったときに対応できる

一家の大黒柱が、突然の事故や病気で障害を負ってしまったり、亡くなるなどしたとき、小さな子供や配偶者はどうしたらいいでしょう。貯めてきたお金だけでは生活できない場合も考えられます。

こうした事態に備えるため、公的年金は障害を負った方や遺族への保障も行っています。

私的扶養から社会的扶養へ

かつては公的年金を多くの人が受給していたわけではなく、受給していたとしても額が少ないこともあり、そのため、多くの人が自分の収入から親の扶養をしていました（私的扶養）。

現在では公的年金制度が充実し、生活の支えとなることで、個人で親を扶養する負担は昔と比べれば軽くなりました。自分の収入で親を養っていたことが、公的年金に移行していったのです（社会的扶養）。

社会的扶養の意義

今、年金制度をやめて私的扶養するとしたらどうなるでしょうか。

昔は兄弟が多かったです。今は一人っ子も増えました。また、お年寄りも元気に長生きになりました。私的扶養では、家族構成や親の年齢・健康などが影響して、個人の負担にばらつきが出てしまいます。現役世代の負担を均等にする意味でもみんなで協力して支える必要があります。

また、公的年金が普及している現在においては、公的年金の社会的扶養の役割を忘れがちですが、現役世代は親に対する経済的な心配が減り、高齢者は自分の子どもに負担をかけないで経済的に自立した生活を送りやすくなります。

● 詳しくは、お近くの年金事務所または役場住民課戸籍年金係(35-2124)へお問い合わせください。 ●

幌加内町は旭川年金事務所の管轄区域です。

住所：〒070-8505 旭川市宮下通り2-1954-2 TEL：0166-25-5589